

## 三鷹市特別職報酬等審議会会議録 要旨

- 1 開催日時  
令和4年11月18日(金)午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所  
三鷹市役所本庁舎3階 市長公室
- 3 出席者  
西尾 隆会長(オンライン)、榎本 宏太郎会長職務代理、篠原 秀和委員、高橋 智織委員、田中 良武委員、谷川 光太郎委員、古瀬 英子委員
- 4 傍聴者  
なし
- 5 配付資料
  - (1) 三鷹市特別職報酬等審議会条例
  - (2) 東京多摩26市 市長等給料調(月額)
  - (3) 東京多摩26市 議員報酬調(月額)
  - (4) 東京多摩26市 期末・勤勉手当支給率調
  - (5) 三鷹市期末・勤勉手当支給率 改定見込
  - (6) 令和4年東京都人事委員会勧告等の概要
  - (7) 三鷹市職層別給与月額調査票
- 6 内容
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 委員自己紹介
  - (4) 市長挨拶
  - (5) 議事
    - ア 会長の互選及び職務代理者の指定  
会長は西尾隆委員に、職務代理者は榎本宏太郎委員に決定
    - イ 行政報告
      - (ア) 東京多摩26市における特別職の報酬の状況について
      - (イ) 三鷹市期末・勤勉手当支給率の状況について
      - (ウ) 三鷹市職層別給与月額について
    - ウ 質疑及び意見交換
  - (4) 閉会

＝特別職報酬等に関する質疑及び意見＝

- ◆ 委員：地方自治というのは地域で住民が物事を決めるので、自治体ごとで特別職の報酬額に差があるのは自然なことである。財政力や人口など類似する自治体同士で互いの状況を見ながら議論し、報酬額が固まってきたのだと思う。

- ◆ 委員：市長、副市長、教育長の給料月額と議員の報酬額の改定の間隔が異なっている。特に市長等については、改定の間隔が長くなっているようであるが、どのような理由か。
  - 事務局：報酬額の改定に当たっては、社会経済状況や東京都人事委員会勧告の内容、近隣自治体の動向等を踏まえて検討をすることになる。その上で、特別職報酬等審議会を開催し委員の皆さまのご意見を伺い決定している。また、各自治体によって改定のタイミングが異なるのも、その自治体の事情により判断されているためである。
  
- ◆ 委員：三鷹市をはじめ全国的にこの3年間は、新型コロナウイルス感染症対策の影響で自治体職員は大変な思いをしたと思う。例えば、ワクチン接種事業、給付金事業、中小企業支援事業など、全住民に対しサービスを提供するのは大きな仕事であったと感じた。この間、どのような仕事の大変さがあったのか、現場での感想があったらお聞かせ願いたい。
  - 事務局：新型コロナウイルス感染症が発生してから、三鷹市独自の事業の他、様々な事業が国や東京都から降りてきた。それらに対しては、既存職員の中から臨時組織を立ち上げ対応をしているところである。そのため、元の職場では少ないメンバーで通常業務を行わなければならない状況が続いている。時間外勤務の令和2年度と令和3年度の比較では、新型コロナ対応だけでなくオリンピックパラリンピック対応やシステム更改対応なども含め約20,000時間増えた。各職場で増加しており、ライフ・ワーク・バランスを維持するのが困難な状況であったと考える。令和4年度は職員数を一定程度増やしているが、職員の負担感は解消されていない。しかし、市民サービスを停滞させることはできないので、一丸となって取り組んでいるところである。
  
- ◆ 委員：このコロナ禍の状況下で、行政に対して市民の厳しい意見が増えていると聞いている。それを受け止めているのが基礎自治体の職員であり、ここまでよく対応したと思っている。
  
- ◆ 委員：市長等の給料月額は、平成7年12月に改訂した後、平成25年1月に改訂し、それが今現在も据え置かれているのか。
  - 事務局：そのとおりである。
  
- ◆ 委員：平成25年当時の東京都の最低賃金は869円であった。令和4年は1,072円であり、率にすると23%上昇している。この9年間ほど据え置かれているということで、少し驚いている。
  
- ◆ 委員：一般職の給料月額は人事院勧告等により増減があるが、特別職の報酬額は、実態としてはあまり動かないものということが分かった。

- ◆ 委員：物価上昇、諸外国との所得の逆転現象、円安など様々な状況の中、民間企業は来年の4月には少し賃金を上げなければいけないと考えている。東京都人事委員会勧告などを参考にするので、三鷹市だけ増額するのは難しいかもしれないが、色々努力して引き上げたとしても、三鷹市が健全に発展していけば、民間企業も賃金を上げる環境が整いやすい。民間も公務もお互いに頑張っけて引き上げられるよう結果を出していけばよいと考える。
  - 事務局：ラスパイレス指数など国家公務員との比較や近隣自治体とのバランスを考慮し、三鷹市だけが突出することは難しいと考えるが、引き続き、三鷹市に就職したいと思えるような職場環境づくりを推進し、職員の頑張りが市民の皆様が届くように努めていきたい。
- ◆ 委員：以前は、週休2日制導入など公務が社会全体の働き方をリードした時代もあった。できるだけ多くの若い人が公務を目指すような魅力ある職場づくりをしてほしい。